

## 博物館部会における審議状況と今後の課題

### 1. これまでの審議状況

- 博物館部会においては、博物館を取り巻く状況の変化や博物館に求められる役割の多様化・高度化を受けて、これからの博物館の在り方について様々な観点から審議を行っている。
- 令和2年には、博物館法制度の在り方について具体的な検討を集中的に行うため、博物館部会の下に「法制度の在り方に関するワーキンググループ」を設置し、令和3年11月まで計11回に渡り議論を行ってきた。
- その間、令和3年8月に文部科学大臣から「これからの時代にふさわしい博物館制度の在り方について」諮問が行われており、博物館部会において、ワーキンググループの議論を踏まえて令和3年12月に「博物館法制度の今後の在り方について（答申）」がとりまとめられている。

#### 【答申骨子】

- I 博物館法制度の現状と課題
  - ・ 法制定時から博物館数が増加（約200館（1951年）→約5,700館（2018年））。
  - ・ 設置形態が多様化（地方独立法や会社立など）。
- II これからの時代にふさわしい博物館の在り方
  - ・ 資料の収集・保管、展示・教育、調査・研究という基本的機能を維持。
  - ・ まちづくり・国際交流、観光・産業、福祉等の関連機関との連携など、求められる役割・機能の多様化・高度化にも対応。
- III 新しい博物館登録制度の方向性等
  - ・ 登録の設置主体となれる法人類型の対象の拡大。
  - ・ 登録の審査基準として外形的な基準に加え、博物館の活動も考慮。
  - ・ 登録審査にあたり、専門家の意見を聴取。
  - ・ 活動と経営の改善・向上を図るため、定期的な報告等を実施。 等

### 2. 今後の課題

- 博物館登録制度に係る登録基準等について議論を進めていく予定。